

## 渋川市議会 政策調査会 会派視察報告

平成30年5月24日  
政策調査会 代表 中澤広行

視察日程 平成30年5月21日から5月23日  
視察場所 北海道旭川市 動物愛護センター「あにまある」について  
北海道滝川市 難病小児自然体験施設「そらぶちキッズキャンプ」について  
北海道留萌市 農業と福祉の連携による6次産業化への取り組み  
「幌糠農業農村支援センター」について  
視察議員 中澤広行 細谷 浩 山内崇仁 池田祐輔

### 1 北海道旭川市 動物愛護センター「あにまある」について

視察日 平成30年5月21日  
説明者 動物愛護センター所長 遠山直希氏  
応対者 議会事務局 今 勇人氏

#### （1）旭川市の概要

古くからのアイヌの人々の営みと開拓の歴史によって、今日の旭川の基礎が築かれました。以来、交通の要衝・物流の集積地として発展し、現在は、北北海道の拠点都市として、医療福祉施設、教育施設、文化施設、公的機関などの都市機能が充実しています。また、産業では、我が国の食糧供給に重要な役割を担う稻作などの農業や、食料品、紙パルプなどの製造業、旭川家具をはじめとした木工、機械金属などのものづくり産業が集積しているほか、北北海道の交通・物流の拠点として、卸・小売業、サービス業などが発展しています。

近年は、航空路線の充実により、外国人観光客が増加しており、全国的に知られる旭山動物園や雪質が良いスキー場などに、国内外から年間500万人を超える観光客が訪れています。（市HPより）



## (2) 動物愛護センターの概要

動物愛護センター「あにまる」は、「命の大切さを伝える施設」、「動物にやさしい施設」、「人と動物の正しい関係を学べる施設」を基本コンセプトとして、適正・終生飼養に関わる飼い主責任の啓発強化や、十分な収容期間を確保した中での譲渡の積極的な推進など、犬や猫の殺処分を極力低減する施策に取り組みます。愛護センターでは最大、犬は28頭、猫は42頭まで収容できる能力があります。

動物愛護・適正飼育の普及啓発として、犬のしつけ方教室や犬や猫とのふれあい体験などを通して、動物の正しい飼い方や習性を学べます。

犬や猫の譲渡の推進として、譲渡会の開催や譲渡動物に関する情報の発信を行うとともに、保護された飼い主のいない犬や猫にしつけを行い、新しい飼い主に譲渡します。

負傷動物の保護・治療として、けがをした飼い主の不明の犬や猫を保護し、適切な治療を行います。

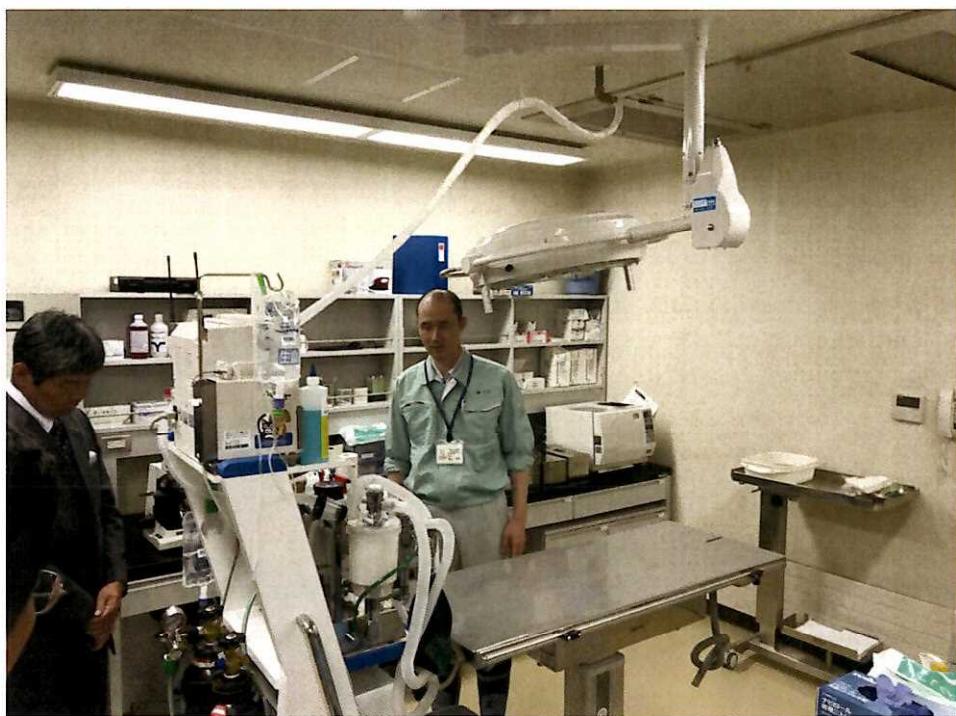
収容動物の適正管理として、収容した犬や猫の健康診断や各種検査を実施し、収容中の健康管理を行います。

ボランティア活動の支援として、動物愛護ボランティア活動を行う市民が常時利用できる場所を開放し、市民の自主的活動を支援します。



このように、動物愛護事業を推進するため独立した市営の施設を運営できることは、人間と動物との関係を考えることに大いに役立つ事業でした。

また、所長に獣医師を抜擢するなどが事業の根幹を支えているものだとも思います。（一部HPより抜粋）



獣医師でもある遠山所長

## 2 北海道滝川市 難病小児自然体験施設「そらぶちキッズキャンプ」について

視察日 平成30年5月22日

説明者 プログラムディレクター 若野貴司氏

応対者 議会事務局 村井 理氏

### (1) 滝川市の概要

滝川市は、北海道のほぼ中央部、石狩川と空知川に挟まれた平野部に広がっています。土地はおおむね平坦で、ゆるやかな丘陵地帯となっています。

気候は、夏と冬の気温の差の激しい内陸性気候で、年平均気温は7度前後。雪は、11月下旬から降り始め、4月上旬まで続きます。

滝川市の語源は、アイヌ語の「ソーラブチ」＝「滝下る所」を意訳したもので。また、空知川の中流には滝のような段差がありアイヌの人々から「ソーラブチペツ」＝「滝のかかる川・滝の川」と呼ばれており、滝川という地名がつけられました。

滝川市の歴史は、明治23年北海道府令第1号によって滝川村戸長役場がおかれたことに始まります。この年、北方の警備と開拓のため屯田兵440戸が入植し、同27年には江部乙に400戸の屯田兵が入植して開拓が進められ、これら屯田兵の往来と生活物資の供給、上川道路の開削に伴う資財の供給で滝川は大いに栄えました。

明治31年上川鉄道の開通、水害の発生で滝川市は、交通の要衝としての地位を失うとともに水害の被害で大きな打撃を受けましたが、大正2年滝川と道東を結ぶ上富良野線（現根室本線）の開通によって再びその地位を回復しました。

昭和に入ってから石炭産業の隆盛によって赤平・芦別など産炭地からの石炭をはじめとする物資の輸送が活発になり、滝川市発展の礎となりました。

（市HPより）



そらぶちキッズキャンプ（HPより）

## (2) そらぶちキッズキャンプの概要

そらぶちキッズキャンプは、難病小児が安心してキャンプを過ごすことができる日本初の医療施設が整ったキャンプ場で、豊かな自然があふれる北海道滝川市の丸加高原にあります。敷地面積は約16ha。滝川市が無償で貸してくださいました。ここで子どもたちはたくさんの自然を体験することができます。2012年には施設も完成し、日本中の病気とたたかっている子どもたちを招待できることを心待ちにしています。

2009年にはそらぶちの森案内所（事務棟）の利用を始め、2010年には医療棟が完成し、食堂棟などの主要施設が2012年には完成しました。キャンプエリア内では、ツリーハウスやバリアフリーの木道、ログハウスなどが整備されています。



## (3) 支援団体

そらぶちキッズキャンプを運営するために、地元を始め全国の支援団体のみなさまから多大なるご理解、あたたかなご支援をいただいています。

運営に関する支援 滝川市・一般社団法人日本公園緑地協会・滝川市医師会

広報・物資に関する支援 滝川ロータリークラブ

物資に関する支援 国際ソロップチミスト滝川

広報に関する支援 フジテレビジョンCRSプロジェクト・月刊ソトコト・株式会社C to Cグループ・松尾ジンギスカン・犬飼雅美・空知キャンドル俱乐部

キャンプへの支援 全日本空輸株式会社(ANA)・株式会社日本航空(JAL)



### (3) 資金支援団体

運営にあたりましては、活動趣旨にご賛同いただきました企業団体の皆様から、さまざまな形で多大なるご支援をいただいています。

シリアルファン チルドレンズ ネットワーク（シリアルファン）

シリアルファンは、俳優のポールニューマン氏が創設した難病の子どもとその家族のためにキャンププログラムを提供する国際的なキャンプネットワークです。このキャンプは、アジア（中東を除く）で初の正会員になります。

その他、50社以上の支援をいただいている。



#### (4) 観察を終えて

日本国内に約20万人いるといわれている小児がんや心臓病などの難病とたたかう子どもたち。「そらぶちキッズキャンプ」は医療施設を完備し、特別に配慮されたキャンプ施設や自然体験プログラムを設けた、子どもたちの夢のキャンプを創っています。病気の子どもたちやその家族が日常を離れ一生の思い出作りができるよう、多くの支援から成り立っています。

難病小児は全国から募集し、費用は交通費を含め家族分すべて施設負担だそうです。世界的な取り組みの国内初の施設となり、課題は多くあるそうですが、すばらしい取り組みに感動させていただきました。

ご案内いただきました、若野氏は大阪出身ですが、群馬大学教育学部卒業生です。（一部HPより抜粋）

### 3 北海道留萌市 農業と福祉の連携による、6次産業化への取り組みについて

観察日 平成30年5月23日

説明者 農林水産課農政係 隅田一成氏 嵯峨知広氏

応対者 市議会副議長 村上 均氏 議会事務局 伯谷英明氏

#### (1) 留萌市の概要

留萌市は、北海道の北西部に位置し、ニシン漁とともに発展し、日本一の生産性を誇る「かずの子」をはじめとした水産加工業、国の重要港湾「留萌港」と国道3路線の結束点、さらに高規格幹線道路留萌深川自動車道の整備といった交通・物流の拠点、国や北海道の官公庁が集積した街です。

市の地形を概観すると、東西に走る留萌川を中心に両翼には平原、丘陵が続き、南側の地形は比較的高度のある山並みがあり、北部は低位な丘陵地です。

豊かな自然に恵まれた留萌市は、西には日本海、南北には暑寒別天売焼尻国定公園が連なり、暑寒別山系をはじめ夢の浮島といわれる天売・焼尻が望れます。特に晴れた日には、遠く利尻・礼文の島影が夕陽の輝く日本海に浮かぶ姿が見られ、風光明媚な街です。

#### (2) 農業と福祉の連携による6次産業化への取り組み

「るもい農福連携推進協議会」は、地域農業の労働力不足の解消と農業生産現場における障害者の就労機会の創出に向け、地域での障害者等の就農支援体制の構築や、就農をサポートするための人材の確保とその育成を図りながら、農村地帯の再生と持続的な発展、新たな産業形成と基盤の強化を図ることを目

的として、平成29年5月、設立されました。



### (3) 幌糠農業・農村支援センター

留萌市幌糠農業・農村支援センターに設置されている減圧低温乾燥機を利用して、干し大根などの乾燥野菜を加工・販売しています。

特に干し大根は、「海風育ち てぎり干し大根」「海風育ち 太ぎり干し大根」のネーミングで、関東圏での発売もしており、シャキシャキの食感が評判です。加工作業の中心は、障害者支援施設「留萌ふれあいの家」。農業と福祉の連携による6次産業化を推進中です。

障害者は、センターに通い収穫された大根を裁断したり袋詰めしたりという作業を行い賃金を得ています。課題として、障害者の通勤手段の確保があるそうです。



減圧低温乾燥機